

1 前回のおさらい

- 1) 市場の失敗 2) 独占 3) 独占的競争 4) 寡占とゲーム理論 5) 公共財の問題
6) 外部性の問題 7) 情報の非対称性 8) 効率と公正に関して ここまで終了

2 本日の内容「マクロ経済学の基本理論」

4-1 マクロ経済の世界

- ① 集計概念 ② フローとストック ③ 国民所得 ④ 国民所得の測定 ⑤ 付加価値という概念

4-2 さまざまな国民所得概念

- ① 国民総生産 (GNP) と国内総生産 (GDP) ② ネットとグロス ③ 狭義の国民所得 (NI)

4-3 三面等価の理論とその応用

- ① 国民所得の三面等価 ② マクロの基本恒等式 $Y = C + I + G + (EX - IM)$

4-3 物価指数

- ① 物価指数のいろいろ ② GDP デフレーター ③ 消費者物価指数

4-5 総需要と総供給

- ① 総需要と総供給 ② 不均衡を埋める主体

4-6 国民所得の決定理論

- ① ケインズ登場 ② ケインズモデル ③ 45度線による国民所得増大の理由
④ インフレギャップとデフレギャップ ⑤ 乗数理論 (投資乗数)
⑥ ケインズのマクロモデル*応用

4-7 生産物市場と貨幣市場の同時均衡 (IS=LM 理論)*応用

- ① IS=LM 理論 ② LS=LM 批判

4-8 景気変動と景気循環

- ① なぜ景気は変動するか ② 景気循環 ③ 代表的な景気循環 ④ 景気指標
⑤ 景気動向指数と日銀短観 ⑥ 経済成長率

*ポイントはマクロの基本恒等式、国民所得の決定理論、IS=LM 理論の三か所。

*篠原先生いわく「マクロ経済の最重要課題は失業とインフレである」(景気変動と金融、政府の経済政策、金融政策が対象になるということ)

*同じく篠原先生「中学校の教科書で取り上げていないマクロ問題は、経済成長、財政赤字、社会保障、為替レート」

3 本日の議論

何を、どこまで教えればよいか。

理論と政策の関係を教える人間がどこまで理解している必要があるか。

1 日時、参加者

日時：16年7月26日（火）14:00～17:30 経済教育ネットワーク東京オフィス

参加者：新井、杉田、金子、埴（都立府中東高）、葦名（元都立武蔵高）の5名

2 主な内容

- ・前回までの確認（市場の失敗まで）を行い、本論に入る。
- ・テキスト（マクロ経済学の基本理論ドラフト）をもとに、解説と質疑を行う。
- ・篠原先生の指摘している「マクロ経済の最重要課題は失業とインフレである」、「中学校の教科書で取り上げていないマクロ問題は、経済成長、財政赤字、社会保障、為替レート」という内容と、今回のテキストの内容は必ずしも一致していないが、これまでの大学レベルの標準型のマクロ経済学の内容をほぼなぞったものとなっているので、その違いを承知したうえで進めることを確認してレクチャーを行う。
- ・マクロ経済学の登場、集計量の測定方法、付加価値の概念などのマクロ経済を考える準備的内容からレクチャーが行われた。
- ・この箇所の質疑では、付加価値のモデルではなぜパン屋の例があげられるのか、サービスの付加価値はどう集計されるのかなど現場の疑問や生徒の疑問がとりあげられて検討が行われた。
- ・また、固定資本減耗と減価償却の違い、どのように生徒に理解させるのかなども議論された。さらに、国民所得を求めるのに間接税を引くのはわかるが、なぜ間接税だけを引くのか、売れ残ったものはどう計算するのかなどの生徒の疑問なども出され、授業で教える際につまずきや理解させるのに難しい部分が議論になった。
- ・物価指数の箇所では、GDP デフレーター（パーシェ型）と消費者物価指数（ラスパイレス型）の計算方法が話題になった。大学入試では問われることがあり、基準年、比較年という用語の問題など、生徒がつまずく箇所なども紹介され、教える人間がどんなところに注意しながら自分自身も学んでゆけばよいかが議論された。
- ・経済政策にかかわるマクロ理論のポイントとなる三面等価からでてくるマクロの恒等式、I、S バランスでは、この理解から不況の原因から貿易収支の問題まで幅広く活用ができることが指摘された。そこまで記述した教科書がないことが、国民所得の部分を単なる暗記にしてしまうのではという指摘もなされた。生徒の理解度の問題も含めて、マクロ経済の学習で何が問題になるのかという原点から考える必要があることが再確認された。
- ・関連して、貿易赤字・黒字という表現の問題点が指摘され、入超・出超という言葉に置き換えられないかという提案もあった。
- ・ここまでで、本日は時間切れとなり、残り部分は次回まわしとなった。
- ・葦名先生というベテランの先生の参加があり、生徒のつまずきやすい点や疑問にこたえる授業やテキストの在り方の議論が活発に行われ、有意義な時間となった。

3 次回

16年9月18日（日）14:00～ 東京オフィス マクロ続き及び財政の予定